

## 第1回 防衛省気候変動タスクフォース議事概要

### 1 日時

令和3年5月14日（金）1440～1500

### 2 場所

防衛省A棟11階第1省議室

### 3 参加者

座長 副大臣

構成員 事務次官、防衛審議官、官房長、防衛政策局長、整備計画局長、人事教育局長、地方協力局長、統合幕僚長、陸上幕僚副長（代理）、海上幕僚長、航空幕僚長、情報本部長、防衛装備庁長官

事務局・説明者 大臣官房文書課長、大臣官房文書課環境対策室長

### 4 次第

- ・開会挨拶
- ・防衛省気候変動タスクフォースの課題・検討項目
- ・令和3年度再生可能エネルギー電気調達実績
- ・意見交換
- ・閉会挨拶

### 5 座長の冒頭発言の概要

第1回防衛省気候変動タスクフォースの開催にあたり、一言挨拶を申し上げる。4月23日に米国政府主催の気候サミットの気候安全保障セッションにおいて、岸防衛大臣から気候変動に対する防衛省自衛隊の取組を世界に発信したとおり、安全保障と気候変動の問題は、決して切り離して考えるべきものではないと考えている。例えば気候変動による海面の上昇は陸地を減少させ領土や資源をめぐる争いを活発化させる。また、大規模な人の移動を巻き起こし地域全体が不安定化すること、それから気候変動により自然災害が万が一増えれば、それだけ自衛隊が派遣する人員が増加し派遣期間も増すこととなり、自衛隊の練度の維持・向上に支障をきたす可能性があるということから、我が国の安全保障に影響を及ぼす恐れがあると考えている。さらに米国と中国が関係国とともに緊密に協力していくことを確認するなど、気候変動に関しては世界的な規模での対応が進んでおり、それらの動向への対応も求められるところである。また、気候変動問題について、4月22日の地球温暖化対策推進本部において、菅総理大臣から我が国の温室効果ガス削減の目標も引き上げるとのご発言があったが、防衛省としても、目標の達成に向けて温

室効果ガスの削減を更に進める必要がある。防衛省としては、昨年度から再生可能エネルギーによる電気の調達を開始したが、令和3年度については、本日、岸防衛大臣が会見で発表されたように、全国各地の自衛隊施設において985施設の内526の施設、令和2年度の151施設と比較して約3.5倍もの施設において調達することとなっており、温室効果ガスの削減に真摯に取り組んでいるところであるが、更に取組を推し進める必要がある。これまで防衛省内の各部局で気候変動の問題に関する議論や検討を重ねてきているところであるが、今後はこのタスクフォースという枠組みで省内一体となって気候変動と安全保障との関係における課題などについて有意義な検討を行ってまいりたいと考えている。

## 6 議論等の概要

- 気候変動タスクフォースとして検討を進めていくにあたり、まずは、いかなる目標の下にどのような成果を導出するかについての全般的な計画を作成してはどうか。
- 再生可能エネルギー電気の調達について、約1,000の各部隊・駐屯地で非常に大きな手間をかけてやっていただいた。具体的には、昨年度から試行的に再エネ調達を始めたが、基地・駐屯地ごとに地元で再生可能エネルギーを提供できる会社があるかどうか調べて、再生可能エネルギー電気100%の事業者が2社以上あれば100%で入札を行う。ここで価格等の関係で不調に終わったら、今度は50%で、もう一回入札を行う。それも駄目なら30%という目標で調達を行う、それが駄目なら再生可能エネルギー電気の調達は諦めて入札を行うという最大4回入札を行う仕組みになっている。従来は普通入札を1回やれば終わりであったが、現場に負担をかけた結果として、こういう成果がでた。引き続き同様のやり方をやっていただかなければならない可能性が高いので、よろしく願います。
- 再エネと国防の両立の中には風力発電施設との関係もある。これについても早急に両立を図っていくための取組を進めていくので、引き続き、協力をお願いする。
- 環境の配慮と自衛隊もしくは軍の活動両立というのはグローバルなトレンドだと考える。この点からグリーンイノベーションという先端的な技術の採用や、価値観を共有する同盟国や友好国との協力も重要なトレンドになると理解している。
- 航空自衛隊の状況は、対象となる施設の約57%で再生可能エネルギー電気の調達を達成している。ただし、一部の地域では、契約型の再生可能エネルギー電気の提供を行う事業者がないなどの理由から実績が頭うちになることも予想されるが、可能な限り再生可能エネルギー電気の調達を進めていきたいと考える。

- 環境の配慮と防衛との両立について、例えば、施設の地積が許せば太陽光パネルを設置し、普段は地域に還元あるいは売電を行い、有事には、発電発電機による電力所要を補う形で自衛隊の施設、活動及び通信の維持のために使うといった持続力の向上に繋げる施策など、今後の課題と認識している。

## 7 座長の閉会挨拶の概要

世界的なトレンドの中で世界のミリタリーの組織もグリーンに着目をしている。政治家として個人的に思うのは、この一番大事な国防との両立について、気候変動の部分を念頭に置きながら現場の皆様含めて着実に尽力いただけると幸いである。次回のタスクフォースに向けて各構成員は、しっかりと課題について検討いただきたい。